

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（中学校用）

県名	三重県
----	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	四日市市立中部中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	2	12	23
生徒数	117	129	114	3	363	

研究の概要

1. 研究主題

(1) 主題（テーマ）	「自ら学ぶ力を育てる ～個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育課程の創造～」
(2) 主題設定の理由	教育目標「美しく生きる ～思いやりと厳しさを持ちたくましく生きていく生徒の育成～」を受けて、3つの教育課題「個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育課程の創造 人権を尊重し、豊かな人間性を育てる教育課程の創造 健康な心と体を育てる教育課程の創造」を設定する。 については主に教科、選択教科、総合的な学習の時間において達成することを意図している。確かな学力を向上させるために、主体的に学ぶ力を育てること、粘り強く取り組む姿勢を育てることが重要な課題である。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・数学1年生・2年生・3年生	生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため、きめ細かな指導を行うため。
・英語1年生・2年生・3年生	繰り返し練習が必要な内容であるため、より個別対応のできる指導を行うため。
・選択教科の国語・数学・英語2年生・3年生	習熟の程度に差が生じる教科であるため、きめ細かな指導を行うため。

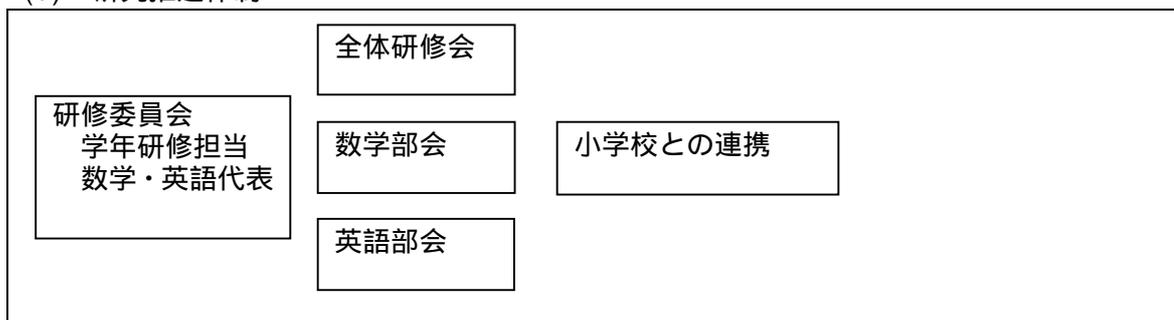
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力を育てる ～主体的に学ぼうとする意欲の向上～」</p> <p>研究の見通し 確かな学力を向上させるために、主体的に学ぼうとする意欲を育てることが必要である。そのため基本の内容の習得とともに、基礎となる内容の補充学習を行い、解る実感を持たせ学習への意欲を育てる。</p> <p>研究の内容・方法 数学・英語とも個別対応を充実させるためにTTによる指導を行う。数学では習熟の程度に応じて自己選択でコース別学習も取り入れる。 国語・数学・英語の選択教科において補充学習を行う。 中部西小学校との連携により小学校の学習の内容や指導方法を学ぶ。 先進校視察を行い、本校の取り組みの方向性を探る。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力を育てる ～主体的に学ぼうとする意欲の向上～」</p> <p>研究の見通し 確かな学力を向上させるために、主体的に学ぼうとする意欲を育てることが必要である。そのため、解る実感を持たせ学習への意欲を育てるとともに、単元ごとの自己評価を行い課題意識を持たせ学習の深化を図る。</p> <p>研究の内容・方法 英語では3学年ともTTによる指導を行う。 数学では1年生2年生で少人数授業を行い、よりきめ細かい指導を行う。また自己評価を行い補充と発展の課題を選択して学習の深化を図る。 国語・数学・英語の選択教科において、習熟の程度に応じて基礎と発展の2講座を、3年生においてはさらに応用の講座を加える。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力を育てる ～個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる～」</p> <p>研究の見通し 確かな学力を向上させるために、主体的に学ぼうとする意欲を育てることが必要である。そのため、解る実感を持たせ学習への意欲を育てるとともに、単元ごとの自己評価を行い課題意識を持たせ学習の深化を図る。</p> <p>研究の内容・方法 英語では3学年ともTTによる指導を行う。 数学では1年生2年生で少人数授業を行う。また自己評価を行い補充と発展の課題を選択して学習の深化を図る。評価の観点を生徒自身に明示し課題意識を明確に持たせるとともに基準問題を作成して評価の基準とさせる。 国語・数学・英語の選択教科において、習熟の程度に応じて基礎と発展の2講座を、3年生においてはさらに応用の講座を加える。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

数学の少人数授業では、指導者の立場から、集中する、学習中の練習課題がよくできる、個別指導がしやすい、評価の観点を観察しやすいなどの利点がある。生徒の立場からは、集中しているのでよく分かる、解りにくいときは説明を聞ける、毎時間の家庭学習点検があり忘れずにできるといった声が聞かれる。

英語では、週3時間のうちの1時間をTTによる指導を行った。意欲的に学習するために「楽しむ」ことを学習の場に取り入れた。指導者側の立場から、導入がスムーズに行える、机間巡視で細かいチェックができる、つまづきを次の指導に生かせる、基本練習に様々な形式が考えられるなどの利点があった。

数学では数学標準学力テストや定期テストの結果から、中間層で理解、処理の面での向上が見られる。また一次関数の単元で昨年度の2年生が55%から75%の達成率の問題を現2年生で試験したところ5から13ポイント程度の達成率の向上が見られた。しかし思考を要する問題の伸びは少なかった。

少人数授業、TTによる指導ともに、指導内容の検討がなされ共通理解の下で授業を行うことができた。

2. 今後の課題

数学では、小單元ごとの評価の観点を生徒自身がとらえられるようにすることで、学習の課題意識を持たせる。学習内容の習得を向上させるために、生徒の課題に応じた指導や習熟課題を準備する。また15年度は2年生図形テキストを作成した。指導のねらいに応じて1年生と3年生の図形テキストなどを作成する。

英語では、3学年とも週3時間のうちの1時間をTTによる指導を行っているため、常に複数体制で指導が行えることが望ましい。年度当初からの人的配置を考慮する。

学力把握のための学校としての取組

数学では、数学標準学力テスト、定期テストの分析により学力の把握を行う。生徒にも評価の観点を明示して課題意識を持たせ自己の力の把握をさせる。

英語では、市販の学力標準検査を行うことで、学力の把握を行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究の概要について報告冊子を作成予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	